

総目次 『改造週報』 (陸軍第三方面軍司令部改造日報館)

『フェンスレス』オンライン版 (第五号) ● 特別付録 資料2

『改造週報』

陸軍第三方面軍司令部改造日報館発行

一九四五年二月八日〜一九四六年五月一日（全一五冊）

第一期 一九四五年二月八日発行

―創刊号―

「表紙」					
創刊のことば					
外侮の防衛と民族復興（一）	蔣中正	3	5		
日本議会の三大課題	下坂四郎	4	5		
日本敗戦外交を駁る	甲斐静馬	6	9		
欧州民主主義の勝利（『文匯週報』転載）		10	11		
聖トーマス收容所 在マニラ米市民の集中生活記録 シェリー・マイダンス、石山一郎訳		12	14		
日本の投降兵（『LIFE』転載）	鄭振鐸	15	18		
焚書記	河原流太郎	16	18		
清代の書獄		18	19		
日本食料問題の危機（日本内地諸新聞転載）	編集部	19			
中国国内問題解説	堤那須夫訳	20	21		
日本の政治犯（『The Nation Week』転載）		21	22		
米国漫画再開		23			
映画「虹」を観る	柴岡生	23			
最近の日本消息	編集部	24			

（全二四頁、国幣一〇〇元）

第二期 一九四五年二月一日発行

―日本憲法問題特輯―

「表紙」					
週間提言					
外侮の防衛と民族復興（二）	蔣中正	3			
日本憲法問題対談会（第一輯）	日本憲法の根本的正格を語る	4	8		
	瀧野正福、陣野豊吉	4	8		
憲法改正 マ元帥と日本の動向	青田良	9	10		
天皇制と連合国の態度	周鯁生	11	12		
この際言つて置きたいこと 文化の障り物	加藤勘十	12			
東京大震災	ノックス・バーガー	13	15		
進駐軍銀座を行く（『週間毎日』転載）		15			
短編 敵（*小説）	パール・バック	16	17		
週間展望		18	19		
電波信管 ペニシリンとは 英米の戦時科学		20	21		
日本新聞切抜帖（日本内地諸新聞転載）		22	24		
社会雑報		24			

（全二四頁、国幣一〇〇元）

第二期 一九四五年二月二日発行

—集中生活下の諸問題特輯—

〔表紙〕

外侮の防衛と民族復興 (三)

生活 集中生活の課題

共済 共済運動の現段階

医療 集中生活と医療

教育 寺子屋便り

婦人 婦人選挙権をめぐって

日本憲法問題対談会 (第二輯)

民主憲法への道

地図 (*詩)

週間展望

廃墟と化した広島

露店のうた (*詩)

短編 敵 (二) (*小説)

日本新聞切抜帖

(全二四頁、国幣一〇〇元)

外侮の防衛と民族復興 (四)

民主主義化のスローガン

建設短言 互助共済

建設短言 衣、食、住

建設短言 新しい設計

米は集るか

新日本経済建設の鍵

建設短言 問題解決の方向

人民の文化

建設短言 個人の成長

婦人と参政権 (上)

生活の歌 (*詩)

建設短言 開かれた扉

霜 (*詩)

米軍占領の日本印象記

パール・ハート部隊 紫勇章隊 (『Pacific citizen』転載)

一兵士の手記

週間展望

短日 (*詩)

集中区の生態

書窓漫筆

直後の長崎・東京

日本新聞切抜帖

マツカーシ、寺岡淳訳

(全三二頁、国幣一五〇元)

第四期 一九四六年一月一日発行

—新日本建設特輯—

〔表紙〕

1

蔣中正 2 3

下田巷 4 6

篠原匡文 4

徳田恒夫 5

山岸多嘉子 6

M・S生 6

上村寿男 7 9

多賀重文 8

島田政雄 10 12

島本恵似子 11

広瀬庫太郎 13 15

高塚土筆 13

徳田静子 14

前川青々濤 15

石山一郎訳 16 18

紫勇章隊 (『Pacific citizen』転載)

秦多嘉子訳 19 20

古川洋三 21

次郎 23

酒見恒平 24 25

久津於華 26 27

マツカーシ、寺岡淳訳 28 30

直後の長崎・東京 31 32

日本新聞切抜帖

(全三二頁、国幣一五〇元)

第五〇六期 一九四六年一月二四日発行

— 日本国内事情特輯 —

「表紙」	1
週間提言	2
外侮の防衛と民族復興(五)	3
日本のインフレと国民生活再建の問題	5
金は踊る闇市場に!	6
一路インフレに突入した敗戦日本の経済	7
日本のインフレ対策	9
食料問題と政治	10
街に拾ふ	10
魚と野菜	12
瘦米議論 二合一勺か二合三勺か	12
農林省制定の田畑収益価格	13
日本石炭事情の展望	14
一月の配炭計画	15
木炭と薪	15
通信炭鉱応援隊	17
日本国鉄輸送の危機	17
ダイヤ改正初日の表情	18
地獄行電車頃命けのこの頃／締出された六万人／危い鉄路疲弊／塩釜郵便局の同盟罷業／蟬集する求職者の群／徒食者を強制就労	19
	20
	29

へ／慶大医学部に民主主義同盟／目立つ体位の減退／九大の民主化／学生消費組合の結成

風呂(*詩)

立花文二

新鉄道建設計画『毎日新聞』転載)

青田良

どうするか 家のない人民

史村三平

焦土に彷徨する失業者の大群

美濃部亮吉

大学の改革 付・教職員に公民啓発運動

高山啓一

学生の叫び 官僚に与ふ

石山一郎

最近の日本社会相

有賀一猛

婦人と参政権(下)

廣瀬庫太郎

めりけん談義

ザカリヤス、成瀬忠訳

週間展望

成瀬忠訳

書籍

成瀬忠訳

日本上海特攻隊 顛末記

成瀬忠訳

農林省職員会要求書

成瀬忠訳

対日心理作戦の裏面

成瀬忠訳

列車削減の実情

成瀬忠訳

街に拾ふ

成瀬忠訳

日本新聞切抜帖

成瀬忠訳

(全四八頁、国幣二〇〇元)

第七期 一九四六年一月二二日発行

— 婦人問題特輯 —

〔表紙〕

外侮の防衛と民族復興（六）

蔣主席の横顔（上）

座談会 婦人生活と参政権

女性生活と政治

欧米における婦人参政の歴史と現状

名乗り上げた婦人候補

議会便り

アメリカ婦人と政治

ユーモア読物 亭主再教育

週間展望

江南随筆 碧螺春の記

ロシア氣質

政党一覧表

日本新聞切抜帖

蔣中正
魯莽

小宮義孝、島本妙、安部マサ、酒井恒子
坂山悌子

シウリング、村山卓訳
秦多嘉子

アレキセフ・トルストイ、鄭料訳
木村重

（全三二頁、国幣一五〇元）

引揚者の生きる道

座談会 引揚問題を語る

七十倍送金の民衆的解決

携行荷物の注意

引揚必須十講

週間展望

小売商資産の補償

マツカーサー元帥とは（米国紙誌転載）

船内では

加治木港とは

米国の新しき边疆日本

ロバート・シャーウッド、成瀬忠訳

原子爆弾を繞る死の闘争

世界最古の民主国

引揚荷物一覧表

真相はかうだ!!

日本新聞切抜帖

太田繁雄
4
5

星信助、志村稔
6
12

篠原匡文
13
14

上村寿男
15
16
17
18
19

20
23
23

24
25
26
28

30
32
30
30
29
30

（全三三頁、国幣一五〇元）

第八期

一九四六年二月一日発行
—引揚問題特輯—

〔表紙〕

週間提言

蔣主席の横顔（下）

魯莽

3
5

第九期

一九四六年二月一五日発行
—民主団結特輯—

〔表紙〕

1

週間提言

民主主義の推進

郷愁（*詩）

邦に学ぶ

落選代表の立場から 徹底的民主主義を

日僑丸の倫理

座談会 日本人居留民 民主団結を語る

内山完造、阿部義宗、濱本ましゑ、広瀬庫太郎、蘆澤駿之助、奥田

民雄、竹本節、星野芳樹

助け合ふ心

海外同胞厚生連盟の提唱

落選代表の立場から 八万共同心の再編

行商のうた（*詩）

遭難記

日本の現状打診 マンフリー・ドゴッドフリー、成瀬忠訳

ジープの空

南京生活から

週間展望

岡高射砲陣

厨（*詩）

写生傍談

日本新聞切抜帖

第一〇期

一九四六年二月二十五日発行

— 青年問題特輯 —

〔表紙〕

週間提言

青年運動の目標

青年の教育と政治の課題

東亜同文書院を別る

デモクラシー教室

青年論壇 学生の立場より

青年論壇 新たな理想に燃えて

総選挙展望 香川県

科学者の青年時代

東印度の両領袖

帰国と就学

労働委員会とは ラチオ解説

週間展望

座談会 民主戦線をどう進めるか（上）『読売報知』転載）

山川均、水谷長三郎、野坂参三、野田武夫、吉田正、読売報知鈴木

編集局長

文の手記

総選挙展望 徳島県

横文字談義

飴（*コント）

総選挙情勢の展望（日本内地新聞転載）

2

3

5

6

7

8

9

13

14

15

16

16

17

19

19

20

21

22

23

24

25

27

27

28

29

30

32

（全三二頁、国幣一五〇元）

1

2

3

4

5

6

9

10

11

11

11

12

13

13

14

15

15

16

17

18

22

23

25

25

26

28

29

森戸辰男

三浦桂祐

内山完造

横山撫松

廣瀬庫太郎

川口広孝

大野熊雄

千代田一郎

高塚つくし

清水一

森山一実

レイダンカン、石山一郎訳

浦田歩々子

酒見恒平

島本恵似子

石山一郎

K・M

星野芳樹

U・S

高久一郎

辰巳公和

三嶽昭雄

熊本武義

森近嘉人

上村卓

上村卓

熊本武義

森近嘉人

上村卓

上村卓

第一期 一九四六年三月六日発行

—生活報告特輯—

「表紙」	1
週間提言	2
幣原内閣インフレ総合対策	3 ~ 4
日僑共済の諸問題	5 ~ 6
デモクラシー教室 民主主義の意義	6
新聞広告面に現れた日本内地の実相	7
共済活動の過去と展望	8 ~ 9
あした（*詩）	9
対米公司物語	10 ~ 11
栄養不足と栄養失調	12 ~ 13
われらの職員会	14 ~ 15
週間展望	16 ~ 17
独身婦人の生活	18 ~ 20
お料理に就て	19 ~ 20
寒の内（*詩）	20
報告 生活合作社と共済	21 ~ 22
日僑露店調べ	22 ~ 23
金の小函	23

国内事情点描

働く婦人の懇談会 『読売新聞』転載

座談会 民主戦線をどう進めるか（下） 『読売報知』転載

山川均、水谷長三郎、野坂参三、野田武夫、吉田正、読売報知鈴木

編集局長

総選挙情勢の展望（日本内地新聞転載）

日本新聞切抜帖

第二二期 一九四六年三月一九日発行

—演劇問題特輯—

「表紙」	1
週間提言	2
過去の日僑と演劇	3 ~ 4
座談会 日本演劇の今後を語る	3 ~ 4
岡田儀平、井開武夫、澤逸郎、小林嘉寿夫、水野博史、藤井真、土	
屋太郎、安田茂、野田良国、小泉譲、島田政雄	4 ~ 8
上海日僑の演劇活動	9 ~ 10
劇団人の反省	9 ~ 10
『父帰る』を見る 協同劇団公演	10 ~ 12
装置の問題 『父帰る』を観て	11 ~ 12
「夢の工場」の民主化	13 ~ 17

真相箱

週間展望

上海らぶそでい (*戯曲)

戯劇春秋所感

月を捕えた電波 電波探知機の偉業

日本新聞切抜帖

柳沢類寿

蕭毅

山村昇

(全三二頁、国幣二〇〇元)

17

18

20

26

28

31

日本雜誌案内

東京ラヂオ解説 新憲法草案と労働組合

週間展望

僧侶の入党

中国に託びる

与論調査と日僑の政治意識

学生と総選挙 (『朝日新聞』転載)

婦人と総選挙 (『朝日新聞』転載)

錦織久良子、藤田寿、大賀久子、山上ミチ子、尾崎千代、蛭川虎三

東条内閣崩壊の真相 真相箱より

立候補者一覧表

日本新聞切抜帖

(全四四頁、国幣一〇〇〇元)

24

25

26

27

28

29

31

第三一四期 一九四六年三月三十一日発行

—総選挙特輯 付…候補者一覧表—

〔表紙〕

週間提言

総選挙の国際的意義

政党解説 総選挙と政党

総選挙への私見

総選挙への手引

総選挙と民主戦線

航空戦の戦果?

総選挙とわれら

各政党の動向 (日本内地新聞転載)

前世を知る印度少女

憲法問題対談会 新憲法草案をめぐりて

柴岡文雄

柏木五郎

内山完造

平野義太郎

青田良

鄭龍介

2

3

5

7

9

12

13

14

16

18

19

第一五期 一九四六年四月一五日発行

—サラリーマンの行くべき途 (座談会)、日本総選挙の結果—

〔表紙〕

週間提言

座談会 サラリーマンの行くべき途

新五百円の家計簿 十日間の決算拝見

一日の食費ザット二百円 大財閥の台所内幕

アメリカに於ける婦人の役割

華中棒給者同盟

スーザン・R・ビーチ

43

35

34

32

32

33

43

44

2

3

8

11

12

米国婦人教育使節に聴く(『毎日新聞』転載)
薩摩女性にも開放の叫び(南日本紙転載)

Aクラス戦犯裁判開幕近し

ナチ党主脳はどう裁かれたか ニュルンベルグの国際裁判

週間展望

これからの映画界

響の取れた美術界

奄美同胞に寄す

新国境の島々

報告 ソ連占領下の日本生活(『朝日新聞』転載)

マ元帥の韓国占領報告

中国はかく忠言する

友の手紙

滔天が孫先生をはじめて識つた頃(文芸春秋社『三十三年の夢』転載)
老舎

宮崎滔天夫人

日本総選挙の結果

日本新聞切抜帖

(全三二頁、国幣六〇〇元)

第一六期

一九四六年四月二二日発行
—日本総選挙の政局、抗戦期間中の上海労働者—

「表紙」

週間提言

総選挙は何を教えたか

総選挙に関するマ元帥の見解

総選挙の結果と内外の批判

上海婦女界国民大会代表選挙

重慶から帰つた人々

科学的な採塩法

冬でも塩の自給に頑張る

ソ連の孵化工作

恐慌途中の日本

復興の癌 生産サボの真相(『朝日新聞』転載)

抗戦期間中の上海労働者

科学物語 「ガメザネ」 駆虫剤とは? ハッシン・アラ

週間展望

トルーマンの一年(『世界知識』転載) 杜若、岑九思訳

真相 海軍特攻隊「神雷」潰滅

東条元首相の命の親 ゴールド大尉(『西日本新聞』転載)

近作映画 日本侵略失敗史

延安より帰つた 陳波児と李麗興

文芸復興

牆

東北人

樺太の海豹島

日本麦作状況(『朝日新聞』転載)

日本新聞切抜帖

柏木五郎

水野敏夫

鹿地亘、青山和夫、榛葉修

錦標、雷雲

永生

ハッシン・アラ

杜若、岑九思訳

趙清閣

胡繩

蕭軍

北川恵

趙清閣

胡繩

蕭軍

北川恵

趙清閣

胡繩

蕭軍

北川恵

趙清閣

胡繩

蕭軍

北川恵

趙清閣

胡繩

蕭軍

北川恵

趙清閣

胡繩

蕭軍

第一七期 一九四六年五月一日発行

—工業合作運動の移植、台湾通信 新生を迎えた高山族—

「表紙」

週間提言

工業合作社運動の移植について	小野三郎	2
次期政権に対する我々の態度	柏木五郎	3～5
明治初年の憲法論争	伊藤幸雄	6
孫中山先生へ(『同時代の人』転載)	ゴーリキ	7～8
各政党の文化政策		9
日本文字の改革		10
関西文化団体の動向	川島生	11～12
司法制度の改革について	丁野曉春	13
戦争犯罪人処罰試案	布施辰治	14
華北の戦犯裁判		14
繆斌公判記 江蘇高等法院にて(『時事新報』転載)	山村昇	15
米国政治界とルーズヴェルト一門		16～17
比大統領候補者		17
提訴されたA級戦犯	ズロツスン	18
何故戦つたか?	荒川政三	18
世界フアツシヨの残塁 スペインの現状	伍啓元	19
物価は何故騰貴するか?		20

台湾通信 新生を迎えた高山族
最後の一点

金徳璋 21～22
呉越 23

ソ連で発明された 不老長寿の法

ウイリアム・L・ローレンス 24～25

日本第五列の活動 シンガポール・香港
百二十五才迄 生きたい

25

カロボフ一家の物語 (『時代日報』転載)

26

みじめな日本女性

ヘレン・モシキ 27～28

阿Qの妹

陳拭之 29～30

メーデーの由来

森山清一 31

スクラツプ・ブツク

32

(全三二頁、国幣六〇〇元)

陸軍第三方面軍司令部改造日報館版『改造週報』について

戦後上海で出版された日本語週刊誌『改造週報』は、陸軍第三方面軍司令部改造日報館(所在地、上海湯恩路一号)によって刊行された。第一期から第一七期まで、すべての誌面が活版印刷である。なお、第五～六期と第一三～一四期は合巻であるため、実質的には全部で一五冊発行された。表紙には、陸軍第三方面軍司令部の長であつた湯恩伯(タンエンボウ)による題字が毎号掲げられている。

改造日報館とは、蒋介石派国民党の組織である陸軍第三方面軍司令部が上海で設置した新聞社である。この新聞社は、今回目次を紹介し

た『改造週報』のほかに、日刊新聞である『改造日報』や一般総合雑誌である『改造評論』、また改造叢書といった対日本人居留民向けの刊行物を多く公にした。これらは日本語の刊行物であり、敗戦時に六〇八万人いたとされる日本人居留民の多くが閲覧したはずである。

改造日報館は、日本人居留民の思想宣導を目的として設立されたと推定される。それまで上海は、対日協力的である汪兆銘派国民党による統治が行われていたが、終戦前後にその政権が解散したこともあって、戦後は蒋介石派国民党政権が陸軍第三方面軍を送り込み、統治を行った。統治にあたって、陸軍第三方面軍司令部は居留民の思想を善導する方針を立てたようである。その方針は、「創刊のことは」（第一期）の「日本民衆をして今日の苦痛を嘗めさせたのは過去のファツシズムであり、日本民族をして再び自由な空気を吸はしめるのは明日の民主主義である」、「今日の日本はファツシズムの余毒を洗ひ落して民主主義的建設に首途しようとする誠に重要な契機にあると言はねばならない」という文言から確認できる。上海居留民は敗戦後も軍国主義を捨て去らない可能性があるため、雑誌メディアを通じて民主主義的な思想を持つ者へと教育されようとした。

改造日報館に関しては、趙夢雲「敗戦後上海の日本語新聞」『植民地文化研究』二〇一三・七）や、高綱博文「敗戦直後の上海における『改造日報』について」『研究紀要』二〇一五・三）など、近年まともった研究が公にされている。しかし、日刊新聞である『改造日報』を対象とした考察がほとんどであり、『改造週報』については研究があまりない。また、中国の民国期の刊行物データベースである大成老旧刊全文数拠庫の中に『改造週報』の目次が確認されるものの、中国語に翻訳されて掲載されているため、実際の誌面とは一致していない。

今回の目次紹介によって、目次を手がかりとしつつ大成老旧刊全文数拠庫と契約している機関に複写依頼を打診することが可能になる。

記事には、新憲法や総選挙など、民主主義的な国家の建設にあたって日本国民に必要な知識を、居留民に学ばせるような内容を持つものが多い。そのほかは居留民の集中生活に関する記事や、日本国内の事情を紹介する記事、引揚の方法を説いた記事などが占めている。また、日本国内の新聞から転載された記事も目立つ。

ただし、記事の全てが陸軍第三方面軍司令部の方針に則っているかという点、そうでもない。たとえば、第四期に島田政雄「人民の文化」という記事があるが、これは共產主義的な思想を啓蒙する内容を持つものとして読まれても、おかしくはない。また島田は、第二期の「座談会 日本演劇の今後を語る」でも、政治的に先鋭な意見を述べ続けている。ちなみに、島田政雄は日本に戻ってからは、中華人民共和国の現代文学の翻訳や紹介に携わった人物だ。

一九四〇年代後半は、合作が解かれ、再び国共両勢力が内戦状態に突入した時期であり、湯恩伯も防共の考えを当然持っていたはずだ。しかし島田の記事に代表されるように、『改造週報』には、民主主義を説く記事に紛れて、実は中国共産党のいきかたを暗に支持するような文献が混在している。こうした誌面から、戦後居留民たちは陸軍第三方面軍司令部の統治下に置かれつつも、比較的自由な言論活動を行っていたことが窺える。

このように、戦後上海の動向を知るうえで『改造週報』は欠かせない資料だが、文学研究において特に注目されるのは、第一二期「演劇問題特輯」だろう。この特集からは、敗戦後から引揚までの間、居留民たちが大規模な演劇活動を行っていたことが分かる。既存の戯曲が

演じられたほか、柳沢類寿「上海らぶそでい」という作品が掲載されていることから分かるように、引揚直前の居留民たちの生活に取材した作品も書かれた。この作品は「応募脚本人選佳作」として掲載されていることから、改造日報館が演劇運動を居留民の間で盛んにするために、脚本コンクールを開催していたことが分かる。

当時の年鑑(「宣導工作」、上海市通志館年鑑委員会編『上海市年鑑』一九四六、各埠中華書局)を読むと、改造日報館はシナリオコンクールや博物館の設置、紙芝居を通じた運動など、様々な文化宣導を行うとした形跡があるが、どこまで実現を見たのかは定かではない。詳細については研究の余地があるとはいえ、日本敗戦から居留民の引揚まで半年程度しかないことを考えると、おそらく本格的な文化宣導は実現しなかった可能性が高いが、「上海らぶそでい」の掲載を含め演劇運動は実施された政策として貴重である。

なお、柳沢類寿は引揚後、映画監督である川島雄三の右腕としてシナリオ執筆や映画演出を担当した奇才である。戦後日本で活躍した文化人の源流を知ることができる点においても、日本敗戦後の上海という空間と、そしてその雰囲気をよく伝える『改造週報』の資料的価値は高いと言えるだろう。

大成老旧刊全文教拋庫(北京大成教拋有限公司・北京超星公司作成)
収録の電子データを参看した。

(藤原崇雅)